プロアクティブな支援 6

生徒指導提要対応型発達支援アプリ「ぷりん P-Lin®」

―生徒指導・教育相談の新しいアプローチ―

前東京成徳大学教授
一般社団法人スクール
セーフティネット・リ
サーチセンター代表理事
田村 節子（たむら せつこ）

2024年10月から「子ども支援アプリぷりん P-Lin」に名称変更

令和四年十二月に生徒指導提要が一二年ぶりに改訂された。おもな改訂点は、①すべての子どもを対象とした成長を促す積極的な生徒指導（発達支援）、②個別の重要課題への関連法規等を反映した対応、③新学習指導要領やチーム学校等の考え方の反映である。

本稿では、改訂後の生徒指導提要を参考にした発達支援アプリ「ぷりんP-Lin®」（以下、ぷりん）の特徴、および導入自治体（茨城県常陸太田市）の事例を紹介しながらアプリがどのように貢献できるか考えたい。

1 生徒指導提要対応型発達支援アプリ「ぷりん」の特徴

ぷりんは、学校心理学者、小児科医師、弁護士、公認心理師等の有志からなる一般社団法人スクールセーフティネット・リサーチセンター（SSRC）が令和三年から開発を開始した。開発はSSRCの原資に加えて、国立教育政策研究所令和五年度教育データ分析・研究推進事業（三年間）、トヨタ財団二〇二三年度研究助成を受けて現在まで行われている。

ぷりんの名前の由来は、「Personal Linkage」（自分とつながる）、「Professional Linkage」（専門家〔心理や教育等〕につながる）の両方の頭文字をとって「P-Lin」を「ぷりん」と読ませている（商標登録番号6661819）。

ぷりんのキャラクターは、幸せのシンボルであるハリネズミ。キャッチフレーズは「ぷりんがいつも君のそばにいるよ♪」である。

イラストレーター高野優

ぷりんの生徒側の機能は、大きく分けて三つある。①自己理解のためのセルフモニタリング機能、②困ったときに学校内外の大人とつながれる機能、③ひとこと日記を通じて教師とコミュニケーションができる機能、である。ぷりんから生徒への質問は、学校心理学の四領域（学習面、心理・社会面、進路面、健康面）についてチャットボット形式で毎日行われる。

ぷりんの教師側の機能は、大きく分けて四つある。①生徒の課題と相談先が把握できる機能、②生徒の学校や家庭での状態がグラフで把握できる機能、③ひとこと日記を通じて生徒とコミュニケーションできる機能、④生徒の支援資源、自助資源を把握できる機能、である。

COCOLOプラン（文部科学省）にも対応できるよう、不登校の生徒も含めたすべての生徒が、一人一台端末を活用してぷりんを入力する。これらにより、生徒指導提要のプロアクティブからリアクティブな支援が網羅できるように工夫されている。

2 茨城県常陸太田市の学校教育指針と導入までの経緯

常陸太田市は、徳川光圀公（水戸黄門）が隠居した西山荘のある自然豊かな地である。不登校への対応については、国や県と同様に本市も重要視している。

滝睦美教育長が推進する常陸太田市の学校教育指針は「夢を描き育て叶える人づくり」である。令和五年度から教育長とぷりんについて意見交換をした結果、生徒の心理的課題の発見と支援に有効との意見をいただき、モデル校による実践が始まった。その後、実践から得た課題や意見を反映し、生徒と教師のニーズに合わせたソフトの最適化を進めた。モデル校への導入は、市教育委員会石井隼人指導主事の多方面への迅速な連絡調整により円滑に行われた。なお、ぷりんは令和六年度七月から常陸太田市全市の全中学校で導入されることが決定している（本稿執筆は六月末）。

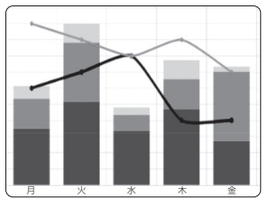
3 モデル校太田中学校のぷりん導入事例

太田中学校（佐藤正一校長）では令和五年よりぷりんが導入されている。佐藤校長は「太田中学校グランドデザイン」に基づき、自律・受容・関係づくり等の資質能力を生徒に身につけさせたいとの熱い思いをもっている。ぷりん導入の際には、「ぷりんをなぜ入力するのか、その目的を生徒へ説明することが入力継続の鍵になる」との貴重な意見を頂戴した。現在、ぷりんの入力は帰りの会で行われている。項目は一三個あり、入力時間は慣れてくると三分前後である。教師が生徒の悩みをキャッチし相談につながった事例もあり現在にいたるまで教師全員で入力一覧を確認し、生徒からの支援ニーズにもれなく対応している。令和六年二月末に実施したアンケートの自由記述の一部を紹介する。

- **生徒の自由記述から抜粋**……「勉強時間が目に見えて達成感が感じられた」「毎週何曜日に睡眠がとれていないか知ることができた」「自分のことをよく振り返れた」「気持ちを書ける」「癒やされている」など。
- **教師の自由記述から抜粋**……「表情や行動の変化が少ない生徒の困り感や悩みを拾うことができるため、効果を感じている」「ぷりんに担任の先生に相談したいと入力してくれた子がいて、ありがたかったし、うれしかった」「いじめ早期発見や心の不安を早く察知することで、不登校や生徒間の関係性など見えづらい部分を支援しやすくなる」「ほとんどの生徒が悩みはあるが『様子を見る』と答えているので、あまり打ち明けられないのかなと思う」など。

アンケートを受けて、生徒が「様子を見る」を連続して選択した場合に、ランダムにぷりんが相談を促す機能を五月に追加した。

佐藤校長は、夏休み中もぷりんの入力を生徒へ促す予定である。生徒は夏休み中の生活をモニタリングでき、困ったことがあれば校内外に連絡可能となる。教師は夏休み中の生徒の様子を把握できる。夏休み中に生徒が入力を継続できるかが鍵となる。



セルフモニタリング画面

4 生徒と教師をつなぐツールとして

モデル校の約半年間の匿名データを学校風土の把握ツールシグマ検査（㈱西日本心理テストセンター）と共に分析した結果、毎日入力する生徒はほとんど入力していない生徒よりも優位に適応がよいことが示唆された。今後も様々な観点から分析し、結果を学校現場にフィードバックし、生徒指導や教育相談に役立て生徒に還元する循環をめざしていきたい。

また、日々生徒の成長を促し、課題を早期発見・介入し学校生活の質向上をめざすことは、教師の働き方改革にもつながっていくと期待される。人生を楽しむ教師の姿は、生徒の生き方のモデルとなるであろう。

ただ、ぷりんができることには限界がある。生徒には人とのふれあいが必要である。生徒と教師との新しい橋渡しとしての役割がぷりんには期待される。

最後に、惜しみない支援を頂いた滝睦美教育長、石井隼人指導主事をはじめとする常陸太田市教育委員会の皆様、太田中学校佐藤正一校長、および太田中学校の先生方に感謝申し上げ、今後もぷりんの最適化の助言をお願いして本稿を締めたい。

引用文献

- 常陸太田市教育委員会「令和六年度常陸太田市の学校教育指針」二〇二四年。
- 常陸太田市立太田中学校グランドデザイン、二〇二四年。https://www.edu-hitachiota-ibaraki.jp/page/page000932.html
- 一般社団法人スクールセーフティネット・リサーチセンターホームページ https://www.ssrc-web.org/
- ぷりん P-Lin ホームページ https://p-lin.org/
- 文部科学省「生徒指導提要改訂版」二〇二二年。
- 文部科学省「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLO プラン）について」二〇二三年。